

CASBEE 新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.6)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	厚生棟	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市八幡西区黒崎城石2番1号	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	70人
気候区分	地域区分	年間使用時間	1,840時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年7月 予定	評価の実施日	2013年5月1日
敷地面積	6,380 m ²	作成者	(株)三菱地所設計
建築面積	3,020 m ²	確認日	
延床面積	4,020 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値: 100%

建築物の取組み: 74%

上記+ 以外のオンサイト手法: 74%

上記+ オフサイト手法: 74%

単位: (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.2

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 黒崎副都心地区の再開発に伴い、市民に開かれた施設を整備する増築施設の一部。黒崎地区の潜在的植生を活かした植栽計画とし、通りに沿って市民に開放された緑地を整備した。施設本体はシンプル且つ機能的な設計とし、経済的でメンテナンス性に優れた計画とした。	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。	
Q1 室内環境 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 快適な執務空間確保の為、適切な照明計画、換気・空調計画に配慮した。	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 食堂ダイニングは2層吹抜けの大空間とし、開放的な室内環境を実現した。また、床耐荷重性能を十分に確保	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 周囲の工場や植栽との調和に配慮して、外装計画は落ち着いた色調があり、かつ明るめの色彩を用いた。また、通りに
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 適切な平面計画、空調エリアの設定により熱負荷を制御した。	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水器具を採用し水資源の保護を行っている。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物を敷地中央に配置し、境界に沿って森を整備することで、周辺環境への負荷を最大限抑えた計画としている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照された